



本日はよくお参り下さいました

今年初のてんじんさまです。皆さま本年もどうぞよろしく願い申し上げます。冬の朝の澄み切った空気は、四季の中でも一番精神が研ぎ澄まされる気が致します。神様は清浄な状態を好まれます。身も心もけがれていないことは神道的に好ましい状態であるといえます。

しかし普段の生活で常にけがれの無い状態に身を置くのは簡単ではありません。



しかしきれいすぎる水に魚が住み着かないように、潔癖でありすぎるのもまた考えものです。良いとされることも、やり過ぎてしまったり、良くないことになってしまいます。何事もほどほどの状態が、一番良いのかもしれませんが。頑張ることは大切ですが、無理をせず、どんなときも自然体でいたいものですね。今月も皆さまのご健康とご多幸を心よりお祈り申し上げます。権禰宜 道子

2月

1日・15日 月次祭 (つきなみさい)
皇室の弥栄と国家安泰、氏子崇敬者並に社会の幸福と平和を祈る。

2日 初午 全国に三万社あるといわれる稲荷神社の総本宮である伏見稲荷大社の創建日。宇迦之御魂神(うかのみたまのかみ)のお祭り。



伏見稲荷大社

3日 節分 この日が一年の最後と考えられ邪気を払い幸せを願う豆まき行事や厄除け行事が行われる。



4日 立春 旧暦の上(節切り)ではこの日が一年の始めとされた。春の気配をどことなく感じる時節。

11日 建国記念の日 かつての「紀元節」。神武天皇即位の第一日。皇紀元年(紀元前660年)正月一日が太陽暦の2月11日にあたることから制定された。

17日 祈年祭 当社における祈年祭は、23日催行。

19日 雨水 今まで降った雪や氷が解けて水となり、雪が雨に変わって降るという意味。

天神さまの豆知識

― 祈年祭(きねんさい) ―
祈年祭は、「としごいのまつり」

とも称し、一年の五穀豊穡と国家安泰を神々に祈るお祭りです。毎年伊勢の神宮と宮中で二月十七日に行われ、全国の神社でも二月中に必ず行われているお祭りです。このお祭りは秋に行われる新嘗祭(にいなめさい)と対になるお祭りで、対という意味は豊作を祈るのが祈年祭、豊作を感謝するのが新嘗祭だからです。人間同士でもお願いごとをしてお世話になったら感謝をする、というのが礼儀ですが、神様に対しても、そのようにするわけです。祈年祭自体は、今から千二百年以上前の奈良時代に、伝統的祭祀をふまえて律令制の中で規定されていた国家的に行われる重要なお祭りでしたが、現在は全国の神社で年間祭祀の大祭の一つとして行われています。

今月の言葉

『人の心は、野の草の風にしたがうが如し』

(鴨長明「菟心集」より)

人の心は移ろいやすい。良き風に吹かれれば穏やかで健やかだ。悪しき強風に吹かれれば、時には枯れ果てる。心も野の草と同じである。穏やかに美しく過ごすためには、良き風となる美しく優れた人や物に触れたい。

参考文献『神道のことば』竹光 誠監修

平成二十六年六月十五日河出書房新社発行



江戸時代の愛知県の熱田神宮での祈年祭の様子